

2011年 迎春



京都交通労働組合

電話(075)841-0948

発行者 瀬戸高志

編集者 佐田 悟

新年号



二〇一一年頭の「あいつ」

執行委員長 瀬戸高志



六十九日ぶりに奇跡的に救出されたこと、あのような死と直面した惨劇であつたにもかかわらず、救出を信じて耐え抜いた精神力と「チームワーク」には、市バス・地下鉄を公営で守るといふことが多々あつたのではないだろうか。と同時に、ひとりひとりが抱くそれぞれの夢に向かって決して諦めず、はいけないという強力なメッセージであつたかのように思えてなりません。私たちが京交は、昨年の第百八十二回定期大会で「質の高いチームワーク」の形成を目指すことと提起いたしました。単なる仲良しではなく、問題意識と価値観を共有すること、議論ができる風土づくりにこだわつた一年になるよう追求し、より強固な組織の構築が図れるよう努めて参ります。本年も組合員皆さんの職場に愛着を持つた「や

私たちが交通局は、昨年二月に市議会の承認を得て「新経営健全化計画」がスタートしました。まもなく一年が経過しようとしています。好スタートが切れたものと思つていますが、ただ、「終わりよければすべてよし」という言葉があるように、自動車事業では七年、高速鉄道事業では十年という期間で計画を達成してこそ努力した過去を振り返られるのであつて、現段階で余韻に浸つてばかりもいられません。公営交通は常に世間の目に晒されることから、計画達成の過程で良いときも悪いときも私たちの動向とは関係なく大波が押し寄せてくるかもしれません。今まで積み上げてきた実績を糧として「すべてはお客様のために」を合言葉に、日本一の公共交通事業者に向かって今年も確実に前進すべく活動に全力を傾注するしかないと思つています。そのためには、言わすもがなひとりひとりの高いモチベーションが必要不可欠です。二〇一一年、野球で例えるところの先取点を取つたところであり、中押し、駄目押しに繋がるように先が汗や涙を流し築き上げた「京交運動」に更に磨きをかけ、組合員の先頭に立つて本年も奮闘することを誓ひ申し上げます。

自動車事業は平成十五年から七年連続黒字を堅持することができました。これは京都市挙げての成果の賜であり、さすが、四囲の状況などを考慮すると当然のこととなつた感があります。ただ、昼夜を問わず市内の輻輳した悪条件下の中で、安全運転に努めつつ、一人何役もこなしたきめ細かな対応で活躍している仲間の奮闘を決して忘れてはなりません。ひとたびハンドルを握り街中へ出れば個々の仕事

となりませんが、同時に多くの仲間が運転するバスが市内を隈無く走行しています。つまり、結果として「個」から「団」の「チームワーク」というキーワードに繋がるのです。だからこそ自分にしかできない快適な空間作りを努めていた評価も上がり、現場のお客様関係が生まれ、事業者としての信頼が完成するのです。撤退を余儀なくされている他都市の仲間の現実を鑑みたと、真似をしてはいけない手本を目の前たりにしてきたわけですから「事故ゼロ・苦情ゼロ」は刺激し合い職務に励んでいただけの環境作りにも力を入れたらと思います。

一方、地下鉄事業は当面の目標であつた現金収支黒字化を達成することができました。但し、ようやく累積で膨れあがつた借金の返済が始まるに過ぎません。今後、十年間というスパンの中で資金不足率を二十%未満に引き下げる道程がとて重要になってきます。そのためにはひとりひとりの役割を全うすること、職場毎で日々の業務を完遂する「チームワーク」が鍵を握るキーワードになつてくると思います。自分さえ良ければいいというふうな考えでなく、周囲に目配り、気配りできる個々の集合体で「現場・保守・管理」が一体となつて取り組むことが肝心ではないでしょうか。京都市の大動脈を円滑に輸送する地下鉄は、「安全・安心」が極めて重要なツールであるのは今さら言うまでもありません。今や、お客様は単なる運送契約を結ぶ対価を支払うだけでなく、同時に付加価値を求めてきます。しかし、付加価値以前の「安全・安心」という基本が大前提であることを決して忘れてはなりません。言葉は悪いかも知れませんが、少々の混乱を招いたとしても、公営交通の存続が掛る「安全・安心」は譲ることのできない生命線と言えます。

交通局は健全な経営のために、様々な分野でアウトソーシングを行い、病弱な体から健康な体になりつつある今日ですが、「先んずれば人を制す」という言葉があるように、常に私たちが交通局で働く職員が先手先手で事業運営に携わり、一四七万京都市民に愛される市バス・地下鉄となるようエンパワメント活動を軸に活動し情報発信し続けることが要だと確信しています。

次に、本年は春に実施される統一地方選挙に全力で取り組まなければならない年であり、何が何でも準組織内「今枝徳蔵」議員の当選を勝ち取ることは勿論のこと、公営交通に理解を示す推薦候補者全員の当選に向け万全の態勢を整えることも行動に移さなければなりません。時代の潮流は早く、昨年のアメリカ中間選挙や日本の政権運営を目的の当たりしに、追い風と逆風でいかようにも流れが変わる一寸先が闇ということを実感したことも思っています。政権与党が浮き草的な政権とならないよう最大支持母体である労働組合がこころを懸けて奮闘することが求められています。必要が少しずつ理解され、新経営健全化計画も確実な一歩を踏み出した今日、市民の足を守る公営交通の存在意義をより盤石なものにするために、昨年にも増して「京交力」を最大限結集しなければなりません。組織の総力を挙げて必勝を期すことをここに宣言し、京交組合員の皆さんのご理解とご協力を切にお願いいたします。

最後になりましたが、本年は組織を牽引するリーダーならびにそれぞれの職場を代表する役員を輩出する重要な選挙が控えています。揺るぎない組織構築を図るため皆さんのご協力を切に願ひします。そして、本年は卯年にあたり「二兎追うものは一兎をも得ず」という諺があるように、「公共交通日本一」という唯々そのひとつの目標に向かって邁進する組織づくりに精進したいと思つています。結びに組合員とその家族の皆様の「生活と権利」を守るために、執行部が先頭に立つて努力して参ることを誓ひ申し上げます。新年冒頭のご挨拶とさせていただきます。

迎春



執行委員長	瀬戸高志
副委員長	佐田悟
書記	中谷文明
書記	田中直人
自動車部長	三木清一
自動車副部長	山本保
電車部長	西野内修一
電車副部長	伴野敏之
本局支部長	松浦健一
西賀茂支部長	宮井直樹
梅津支部長	矢谷一夫
錦林支部長	西村実
九条支部長	和田清貴
烏丸支部長	藤井信雄
自整支部長	村上裕嗣
烏丸線乗務支部長	田中徹
烏丸線乗務支部長	高石達彦
東西線乗務支部長	福江務
東西線乗務支部長	余田秀樹
電整支部長	湯浅敏雄
顧問	岡本光治
顧問	梅林等
顧問	長谷川雅也
顧問	村尾
書記	岡田恵子



2011新春お年玉クイズ

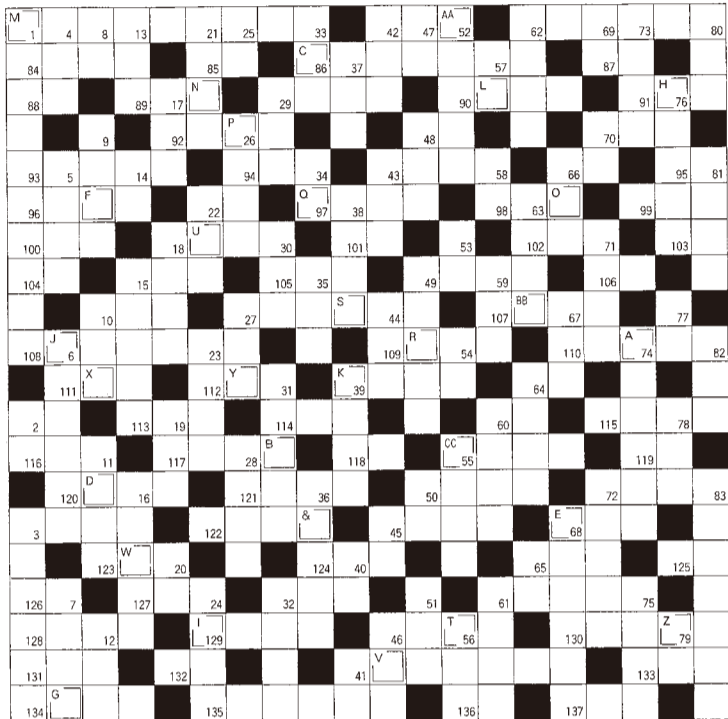


1月25日締切
(本部署)です

2011年、卯年の幕開けです。お正月はのんびり過ごすのが一番ですが、一年の計はクイズにあり。ということで、正月早々ですが堅い頭を柔らかい頭にする頭の体操してみませんか? 「クロスワードパズル」に答えてください。正解者の中から抽選で5人の方に「エクシブ利用券5000円分」さらに5人の方に豪華? 「お年玉」をプレゼントします。どしどし応募してください。

このお年玉クイズが解けた方は、支部名、コード番号、名前、機関紙に対するご意見ご要望等を記入の上、京交本部教宣部機関紙編集チームまでお送りください。

締め切りは1月25日(火)必着です。なお当選者の発表は次号以降の機関紙「京交」で!



- 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
- 《タテのカギ》
- どうにか穏やかな状態が続くこと
 - 秋の花、○○人形
 - もうけ時
 - 食物の風味を増し食欲をそそげるもの
 - 荷物が到着すること
 - 日常生活に使う品物
 - 金のかたまり
 - 帽子の固めにひさしのように差し出した部分
 - 得点
 - トウモロコシ
 - 源頼光の四天王の一人。坂田○○○○
 - 議論のよりどころ、観点、見方
 - 本願
 - まわりをふちどって囲むもの
 - 婚約音
 - 宴会などで座興にする芸
 - ↑本鈴
 - 聞いても取り上ない、問題にしないこと
 - 仕事などを他に任せてしてもらうこと
 - フロアー
 - さくらんぼ
 - 魚、野菜などの出さかりの時期
 - 一すみ。氷山の○○
 - 書物などの中さし絵
 - ツノ出せ、○○出せ、頭出せ
- 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26
- 頭の上下
- 江戸時代に完成した日本特有の大衆劇
 - ↑退化
 - 不注意からのあやまち
 - 死霊・生霊
 - 墨を水で擦るために使う道具
 - カントリ
 - 本筋からはずれた、ほかの話
 - 試合などで第1位とすること
 - 月曜の次の日
 - 一緒に加えて計算すること
 - うがいに用いる白色透明な結晶
 - 栗の実のとげのついた外皮
 - 印刷用の色のついた液体
 - 岩が空気にさらされ土になる現象
 - ↑答辞
 - ↑善
 - 船の建造・修理をするための築造施設
 - ↑過密
 - そむき、離れること
 - 春の初めごろ
 - ↑上位
 - コイン
 - にこった川の流れ
 - シユーズ
- 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54
- 寺院にある多層の建物
- 八朔
 - 組み立て・仕掛け
 - 四季が一巡する期間
 - も積もれば山となる
 - ホエール
 - 他を大きく引き難して
 - 先頭にあること
 - 最古の化石人類
 - ごはんは豚カツを卵でとじてのせた丼
 - けいこ。課業
 - 物に深く感じて心を動かすこと
 - ピン、ボン、○○
 - 男の子
 - 走・攻・守
 - スノー
 - まじりけが全くないこと
 - 季節によって吹く風
 - 生まれ土地
 - テレビである番組が見られていく割合
 - 苦しい境遇・立題
 - 狩りをする人
 - 仮に建てた小さな建物
 - 苦心していろいろ考えること
 - 弦を張り矢をつがえて射る武器
 - 物事の始まりの所
 - ししがしらをかぶって行う舞
 - 追試験
 - 飛行機同士の戦闘

問題文

A	B	C	D
E	F	G	H
I	J	K	L
M	N	O	P
Q	R	S	T
U	V	W	X
Y	Z	&	AA
BB	CC	?	

■AからCCまでの文字をあてはめていくと、問題文ができあがります。その問題文の答えが、このクロスワードパズルの解答となります。

- 《ヨコのカギ》
- シヤッターを切るのに最も適した瞬間
 - 役に立つこと。貢献すること
 - 真弓、秋山、渡辺、原、米季から星野
 - 事柄を知らせる方法
 - 食器類を拭くための布
 - パケーション
 - 習字
 - 将来も活動する可能性のある断層
 - 目の、ものを見る力
 - 27 22 18 15 10 3
 - 補って不足を満たすこと
 - ユニコーン
 - 木材を並べつないで水面に浮かべたもの
 - 不意に切りかかること
 - 人と会ったときに交す儀礼的な動作や言葉
 - 子ども達の純真な心を多くして米をやわらかく炊いたもの
 - くつつ下
 - せめぎ合う心理状態の動き
 - ↑寒
 - 男性用の夜間の礼服
 - 紙を折って作った飛行機
 - 水をかいて舟を進める道具
 - ズボン
 - 財産の出納・増減を記録する記帳法
 - ↑右折
 - ↑不利
 - 物事を成し遂げようとする精神力
 - 衣服の首に当たる部分
 - 頭を冷やし足を温めること
 - 半透明で堅い、吸水性のない焼き物
 - は広いな、大きいなり
 - 二点を結ぶ線分の長さ
 - 山で切った木を運ぶ道具
 - 前もって何となく感ずること
 - ほしぶどう
 - 身内の間だけでする祝事
 - 自分の状態をわきまえること
 - 油や脂肪
 - がらくた
 - ゴイヤ
 - 中継
 - 講演・講習を行う人
 - 西洋型の小帆船
 - 刀剣や弓の手で握る所
 - 後から付け足して書くこと
 - 家の中の地面のままになった所
 - 昆虫のさなぎが成虫になること
 - しわざ。ふるまい
 - 二つそろって一組になつていくもの
 - 縁起をかつぐ対象となるもの
 - 主導権
 - 北東
 - 背広の下に着るそでの長い襟付きのシャツ
 - 元素記号Ti
 - 月をながめて愛でること
 - 神にささげる神聖な火雲を伴った雨
 - まっすぐ見詰めること
 - 地球を包む無色・無臭の混合気体
 - 客の求めに応じて乗せる営業用自動車
 - サーモン
 - のつるに茄子はならぬ
 - 品位。気品
 - 物事を行う順序・だん
 - アタター
 - 競馬の馬の乗り手
 - 四すみに角がある形
 - 必要以上に物を惜しがる人
 - 呼吸
 - 天上から見た人間の世界
 - 連絡を取り合い何かをしようとする
 - 牛や羊などを飼って行う農業
 - 必要なものが得られるように求めること
 - 粘土を焼いて作った円管
 - 煙・炎に含まれる炭素の黒い粉末
 - 祭りの夜に道端などで物を売る店
 - 木苺
 - 統計による判断・推論の方法を研究する学問
 - ↑官
 - 動かし始めること

- 必要以上に物を惜しがる人
- 呼吸
- 天上から見た人間の世界
- 連絡を取り合い何かをしようとする
- 牛や羊などを飼って行う農業
- 必要なものが得られるように求めること
- 粘土を焼いて作った円管
- 煙・炎に含まれる炭素の黒い粉末
- 祭りの夜に道端などで物を売る店
- 木苺
- 統計による判断・推論の方法を研究する学問
- ↑官
- 動かし始めること
- 必要以上の物を惜しがる人
- 呼吸
- 天上から見た人間の世界
- 連絡を取り合い何かをしようとする
- 牛や羊などを飼って行う農業
- 必要なものが得られるように求めること
- 粘土を焼いて作った円管
- 煙・炎に含まれる炭素の黒い粉末
- 祭りの夜に道端などで物を売る店
- 木苺
- 統計による判断・推論の方法を研究する学問
- ↑官
- 動かし始めること

新春 都夢ちゃんのひとり言

《お年玉の由来》

「お年玉」の由来は、古くからの風習で、鎮守様や年神様・祖霊に奉納お供えしたお供餅(御鏡餅)を参拝者や訪問者に分け与えたり振舞った神事からなっています。

鏡餅は「御鏡餅」でも少し説明しましたが、「魂(玉)を宿すもの」と考えられたことから、年神様か御鏡餅に宿った魂(玉)をお下げてみんないたたくということから「年玉(魂)」となり、さらに畏敬の念を込めて「御年玉」と称されるようになったのです。

お歳暮は、成人した子どもが両親やお世話になった人に慶弔に感謝なく贈るのに対して、「お年玉」は、家長や目上の者が目下や家族・親戚に贈ることが伝統となっています。

鎌倉時代・室町時代の武家社会では刀剣などを論功行賞(戦での功績による金品の下賜や領土分与)とは別に与えたり、江戸時代の商家では、奉公人に「お年玉」としてお供餅を与えたとの記述もあります。

この「お年玉」が略式的贈答の習慣が次第にさかんとし、「お年始」として一般庶民にも浸透し、更に時代とともに変遷をえて、高価な贈答物としての「御年賀」や「御年始」が次第に子ども達へお土産のお菓子や玩具が「お年玉」へと変化していったのです。

関東地区の古い商家や企業では、今でもポチナスとは別に、仕事納めの日に、社長から「御餅代」としてのお年玉を渡す風習が残っており、現在の「ポチナス」とは少し意味が変わってゆくようです。

また、現在では、現金とともにお菓子を「お年玉」として渡す地域も残っています。「女正月」といわれる一月十五日に女性だけのお正月をお祝い(酒宴や祝宴)に子供たちへのお菓子の「お年玉」を振舞う慣習の地域もあります。

お年玉袋のことを正しくは、「ポチ袋」とか「祝儀袋」といいます。その語源は、「僅か」や「心ばかり」という古い関西弁は「ほちち」と、関東弁は「これっぽち」という言葉から、特にことごとちへのお年玉袋のことを「ポチ袋」と呼んでいます。また、小銭や僅かなお金を入れる袋という意味で「ポチ袋」「祝儀を包む袋」という意味から「祝儀袋」と言われることもあるようです。

これら「ポチ袋」の起源は、芸者さんや役者さんに渡す「おひねり」とつたえられています。

江戸時代は、現在のようない紙幣が流通していた経済ではなく、銀貨や小判のような硬貨でした。金銭そのものではなく、まとまりがなく「じゃらじゃら」するのは粋ではないということで、祝儀袋に包む習慣ができたのです。

当初は、半紙のような白色の紙に包んだり、時に巾着のように余分な部分を紙で包んだことから「おひねり」として渡したり、投げたのです。

この粋さを更に「大人」という文字や「松竹梅」「鶴亀」「宝つくし」などの縁起を担いだ図柄を好んで印刷するように発展しました。

現在では、キャラクターや干支なども多くなりましたが、近年の傾向としては、流行や干支など単年度だけ使えるポチ袋から、毎年使いまわしの利くポチ袋が人気です。

子ども達へのお年玉の風習は、日本だけではなくアジア圏に広くあり、子供にお金を渡すことで、「厄神を祓う」という意味も含まれているそうです。